

2022年度 第21期  
水俣学講義  
2022.11.24

# 一医学生が見た水俣病




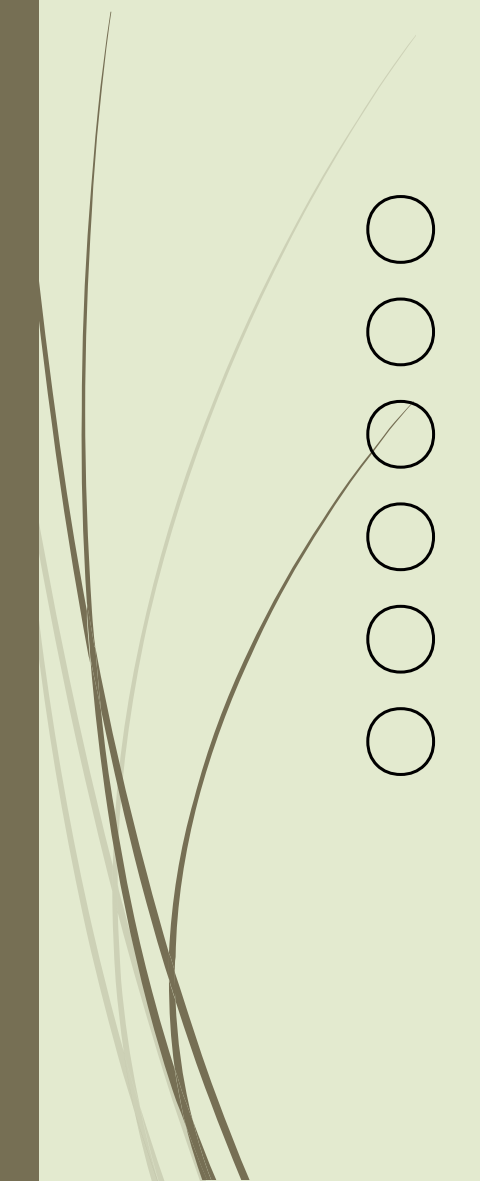
済生会熊本病院医療情報調査分析研究所 所長


支部熊本県済生会支部長 副島秀久



# ストーリー

- ・ 社会を知らない学生が水俣病にどのようにかかわったか
- ・ 水俣病をどのように捉えたか
- ・ 水俣病から学んだことは？
- ・ 若い時の見え方と年を経た後の見え方

- 
- 
- 自己紹介
  - 当時の社会状況
  - 水俣病と大学
  - 水俣病の歴史と自分史
  - 何を教訓として学んだか
  - 若い人に期待すること



## 自己年表

- 1949年生まれ 北九州市出身
- 1968年 八幡高校卒業
- 1969年 熊本大学医学部入学
- 1971年 学部進学
- 1975年 医学部卒業 泌尿器科入局
- 1977年 研修医修了 大学院進学
- 1981年 大学院修了 熊本大学助手
- 1986年 ミシガン大学留学
- 1988年 熊本大学医学部講師
- 1989年 済生会熊本病院
- 2009年 同院長
- 2017年 同退任 現在に至る

## 水俣病歴史年表

- 1954年 奇病発見 正式発見5月1日
- 1955年 漁獲禁止はなく食禁止の薦め、猫の発症相次ぐ
- 1956年 排水の水路を百間港から水俣川に変更、ハンターラッセル報告と類似
- 1957年 水俣湾内に高濃度の水銀 毛髪や臓器の高水銀濃度 細川氏の排水投与実験で猫発症 1966年ごろまでひそかに水俣湾に直接放棄
- 1960年 有機水銀特定
- 1962年 胎児性水俣病診断
- 1965年 新潟水俣病
- 1968年 水俣病の原因に対する政府正式見解でチッソによるメチル水銀排水と判定
- 1969年 水俣病訴訟提起 水俣病を告発する会
- 1970年 患者認定審査会は臨床症状の明らかな場合のみに限定
- 1972年 水俣病口頭弁論終了
- 1985年 水俣病は終わっていない (原田正純)
- 1994年 慢性水俣病 何が病像論なのか (原田正純)

## チッソ株式会社歴史

1907年 日本カーバード商会設立

1908年 日本チッソ肥料株式会社

1923年 延岡工場

2011年 JNC株式会社設立

大正14, 5年 漁業被害

1956年 漁獲高1952年ころの122,460貫から1956年には25493貫と1/5に減少

1959年 熊大が有機水銀説を公表

1960年 水俣病研究懇談会（日本医学会会長田宮猛雄）東京工大清浦雷作が有機アミン説

1962年 労働争議

1965年 チッソ株式会社 1965年無配

1968年 チッソ水俣工場 アセトアルデヒドの製造中止

1970年 株主総会 一株株主運動1978年 上場廃止

1979年 熊本地裁で二人の被告に業務上過失死傷剤で有罪判決

1988年 有罪判決確定（最高裁）

2004年 水俣病関西訴訟

最高裁判決で国、県は1959年終わりまでに水俣病の原因物質特定できたとし1960年以降の患者発生に不作為違法行為があったと認定

## 私の学生時代

- ◇ 高校時代は特に社会問題に興味があるとは言えなかった。
- ◇ 大学入試の時には東大紛争・闘争があり騒々しい時代であった。
- ◇ 入学後も授業は殆どなく、部活や自動車教習所へ行くなどで大学らしい講義はなかった。
- ◇ 9月になり授業が始まり多忙になる。
- ◇ 医学生時代は胎児性水俣病や新潟水俣病などの派生的な病症拡大と訴訟の時期だった
- ◇ 水俣病に関心を持ち始めたのは専門に入ってから。
- ◇ 水俣病検診や現地調査などに参加し肌で感じるが多かった。
- ◇ 特に水俣病多発地域の貧しさが衝撃的だった。
- ◇ 貧しさがゆえに戦えず、不利な条件で和解せざるを得ない状況。
- ◇ 審査の在り方にはよくわからない部分もあったが、当時の状況がそうさせたのか。

世間知らずの医学生のレベルで水俣病をトータルに理解することは難しかった。

## ・ 社会の構造や実態をあまり知らない他県から来た医学生が水俣病にどのようにかかわったか

普通のサラリーマンの次男として北九州で育ち熊本に来たが、公害に関してほとんど関心がなかった。→ ずっと同じ環境で過ごすとなんかusualになる

大学に入っても部活や車の免許取得で忙しく、社会問題に対する関心は芽生えたものの殆ど積極的な活動をする事はなかった → やはり余裕が必要

専門に上がり本格的な医学教育を受けるころから関心を持った。特に学生会や社会医療研究会（社医研）などに属し、少しずつ知ることとなった。→ 何かのきっかけが必要

水俣病検診や現地調査に参加することで実相をより深く理解し、事の重大性を肌身で知ることとなった。→ やはりリアル

水俣病自体の疫学研究に加えてそれを取り巻く行政、アカデミア、政治、法制度、人権などを深く考えさせられた。→ 多方面からとらえた事実とその解釈や意味の社会勉強



## ・ 1967年某月某日 始めて水俣を訪れた

5月の連休とは言え、少し動くと額から汗が噴き出すほど暑かった。両際に草が追いついた坂道を登っていくと水俣湾が白く光って見え、海から上がってくる風が涼しく感じられた。先輩のT氏はこの辺りに土地勘があるらしく、一見、人家など無さそうな雑草の道を迷わず登っていく。私は汗を拭きながら彼について登っていくだけだった。しばらくし登ると少し平らな地があり、その雑草の向こうに人家らしきものが見えた。

「こんにちわ」と呼んでもなんの音も返ってこなかった。部屋は薄暗く、障子も破れて廃屋の趣を呈していた。しばらくすると暗がりの中からぬーっと老婆が出てきたがその姿に驚き思わずあとすざりしそうだった。老婆は今までに見たこともないような異様ないで立ちで、身に衣は着けてはいるが着物とは思えなかった。

世の中が高度成長で浮かれている頃に、このような貧困があることが衝撃で、調査の内容は殆ど記憶にない。ただ、「棄民」という言葉がずっとこびりついていた。



- ・ **水俣病をどのように捉えたか**


正直言って現在進行中の事象を未経験の若者が理解するには困難。わからないままやっていた。→ 例えば義憤、正義感などがベースにあったかもしれないがそれだけでは解決しないものも多い

- ・ **水俣病からまなんだことは？**

学生時代の理解は浅いが、社会問題への関心は底流にあり、そうした視点でみれるようになった。→感受性の高い時代に重要な社会問題にコミットすること（どうせその時には解らないんだが、後年になって噛み締めるようにわかるようになる）

## ・ 1967年某月某日 小さな役場を訪れた

ある雨の降る日に、T氏と彼の車に乗って患者調査に出かけた。目的は患者家族について聞き取りをするための住所確認だったと思う。やがて小さな村役場にたどり着いた。村役場は長い校舎のような木造のつくりで、いまなら昭和を彷彿させるレトロな雰囲気だった。受付で用を告げると何やら胡散臭そうな目で見られた。もちろん、今なら個人情報保護を盾にとって門前払いを食らうところだが、当時は緩やかだった。医学部の学生だと告げると信用してくれたが、警戒感と非協力を感ぜさせる対応だった。水俣病が身近な地域で明るみに出ること自体に抵抗感があったのかもしれない。よそ者に探られるのは良い気分ではなかっただろう。患者家族はいわれのない偏見のもとで生きざるを得なかった。



## ・若い時の見え方と年を経た後の見え方

若い時は情熱と行動力があり、好奇心旺盛で何にでも首を突っ込む→でもわかっているかどうかはわからない。わかったつもりやわかったふり是可以する。

若い時は理解できない個別的な事象の背景が埋まっていくことで事象と事象がつながり全体像を多角的に見れるようになった。→情熱は減るが戦略は豊富になる（“大人の対応”もできるようになる）

## ・ 水俣病発生初期の政治の動き

アカデミアや行政の動きに比し、地元議員や県会議員の積極的な動きはあまり見られない。

経済力の乏しい弱者は政治や行政を動かすのも難しく  
唯一の頼みはメディアとアカデミアであった

経済力の増大 → 権力の増大 → さらなる経済力の増大が進む → 格差の拡大

人間社会は所得格差や権力勾配を常に修正しなければ必然的に権力の寡占化が進む→独裁

これは社会的なエントロピーの増大であり、限界を超えると破局にいたる

第二次世界大戦前の社会的エントロピーは極大化した  
→ 戦争で解決しようとしたが破局を迎えた → 戦後平等から再出発したが次第にエントロピーが増大しつつある

## ・ 当時の医療レベルと現在の医療レベル

いまだったら

診断が見つからない症状や症候が多発したら→AIで診断  
検索→怪しいものをまず中止や隔離


患者登録を統一IDを使ってすすめ一元管理する  
→SNSで情報収集→スマホで検診

患者の体液検査を組織的に行うとともに環境サンプルを採取し分析する

中毒性とわかれば原因特定のために、摂取物をすべて分析する。発症と因果関係がありそうな物質のリストを作り、動物実験で確定する。

## ・ 当時の状況

環境意識が著しく低かった  
分析技術がなかったかその精度が低かった  
感染症が疑われたが患者層、地域性、病状、他の動物被害などを考えると中毒  
患者の疫学的調査が組織的に広範囲に行いそのデータを管理することができなかった  
原因が明らかになるまでの措置が遅すぎた  
公害関連の法整備が乏しかった  
補償制度も不十分だった  
アカデミアも総力を挙げての体制ができなかった  
フェイクを早期に排除できなかった



## ・事実とは何か


詳細な事実の積み上げで真実が見えてくるのだろうが、事実を構成する医療、医学、科学、行政、政治、マスコミ、歴史などを理解しなければ、本当の意味の理解につながらない。若い時は、知識も少なく、それぞれの事実の関係性などもわからず、誤った結論を出すかそのうち考えるのをやめてしまいがちだ。結論を急がずに冷静に事実を見続けながら、後背にある膨大な事実を学ぶ必要がある。





## ・閉鎖的な社会に生きること


狭い社会に生きると狭い価値観しか形成されない。19世紀までは人口の95%が半径20kmの範囲で人生を終えた。異国を観ないで尊王攘夷を唱える井の中の蛙だった。狭い価値観では総合的な理解はできない。若い時にこそ外に出て様々な経験をしてほしい。



- ・ **憲法の主旨**  
**第二十五条**

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。




## ・まとめると

社会全体がいまだ貧困から抜け出せてなかった  
人権意識が乏しく、人の命が安かった  
環境の変化はかなり前から顕在していたが無視されて  
いた

政治的解決プロセスが十分機能しなかった → 誰が  
解決主体か

補償制度が未整備だった



・ Gaia Vince (女性科学ジャーナリスト)

「進化を超える進化」2022年 文藝春秋社  
わたしたちは、自分が何を知っているかをどうやって知るのだろうか？継承者であり、祖先の文化的・生物学的遺産であるわたたくしたちは、自らの存在について問い、自らが何者で、時空のどこに存在するのかと考える。わたしたちは物語を持っており、それは過去について語り、未来を想像するのを助ける。

\* 水俣病で亡くなった多くの罪なき人々とその家族は、水俣病と言う歴史に残る事件から何を、学び何を伝えるかをわれわれに問うている。



## ・ 現生人類の歴史

320000年前 東アフリカ気候変動

200000年前 狩猟

150000年前 火の使用

80000年前 現生人類が出アフリカ

74000年前 インドネシア トバ火山の巨大噴火  
で人口は数千人に減少

20000年前 氷河時代 海面は-20m、人間は60%  
減少

気候変動で絶滅の危機は何度かあった。今は人為的  
な気候変動を起こし絶滅の可能性を高めている

## ・ 現生人類について

現代は環境汚染に対する意識が高まり、マイクロプラスチックやCO2排出による温暖化など、グローバルな問題が提起されている。これに対するソリューションを国や体制の壁を越えて見出すべき時代だ。人類が総力を挙げて取り組まなければ現生人類は高々1万年ほどで終焉を迎える。とくに産業革命以後の150年間に人は生物の範囲を超越し、すべてを支配しようとしている。

1800年 平均的なひとが使う光の量は1100ルーメン/y

2006年 1300万ルーメン/y、11800倍となった

1800年 1年間、毎日2時間26分灯す獣脂ろうを作るのに60時間の労働が必要だった

2006年 100万ルーメンの人口光の価格は2ポンド89ペンス(480円程度)

技術革新により光のコストが大幅に低下した。エネルギーのコストが低下し莫大に使用することとなった。わずか1世代で地表の5分の2が人間の食糧生産に使われるようになった。世界の真水の4分の3は人間が使用 すでに地球の純一次生産量の四分の一を使った。

多くの脳が集まり、密にネットワークを形成することで新しいアイデアが生まれる。集合脳が新たな民主的な解決策を提示してくれるかもしれない。

## ・若いということ

若いということとは（誰しもそうだが）活力に富み、好奇心にあふれ、無責任に楽しい。ただ、本当に成長につながる時間は実は短い。20歳までに言語を含めた基礎的な人格が形成され、30歳までに思考の基本的パターンが決まる。それまでにいかに本を読み、考え、人の話を聞き、語り合い、旅に出て見知らぬ人と会い、見知らぬ地を踏み、自分と価値観の違う人々と知り、語り合うことだ。

愚かなことは一切するな。




## ・若い人に期待すること

若いころは元気で好奇心旺盛で無責任→だからなんでも挑戦できる

知識や技術を効率よく吸収できる時期は限られている→人生長いんだからゆっくり行こうは年を取ってからの話

時間は有限→愚かなことは一切やるな！





- ・ **人生を変えるものは何か**

一人旅、読書、病気

